

キャバノーをめぐる醜態のすべては、トランプの“泥沼”

掃除決行の方を向いている

Greatchain

2018/10/03

RT (Russia Today) は、9月28日、「アメリカの恥さらし：笑劇キャバノーの後、アメリカは正義や政治について、世界に教えるものは何もなくなった」という鋭い論評を載せ、「多くのアメリカ以外の人々が、木曜日、悪意と、正当なプロセスの放棄、非人間性を見世物を、あっけにとられ、嫌悪を催しながら見つめた。西側最大の民主国家の機能障害が、地球の他の者たちに、情けない一つの例を見せつけた」と書いた。

なぜこのような、恥も外聞もない事件が起こったのか？ これは誰が見ても、アメリカが急速に崩壊している一つの兆候だが、よほど窮地に追い込まれなければ、こんなことは起こらないだろう。なぜだったのか？ これについては、Neonettle 9月24日の「トランプが、深層国家の国家反逆者たちに対し、大量逮捕と軍事裁判を計画」を読むと、なるほどと思える。

引用された記録文書を見ると、トランプ大統領が、深層国家の国家反逆者の大量逮捕を実行すべく、腹を決めていることがわかる。

これら深層国家のスパイには、アンドルー・マッケイブ、ピーター・ストルゾク (Strzok、読み方不明)、ジェームズ・コーミー、それにバラク・オバマまで入っている。

Infowars の特別報告によれば：——キャバノーの米最高裁への承認は、タイムリーにこれ（大量逮捕）を実行するためのカギだったのであり、これこそ、慌てふためいた左翼が、このような乱暴で過激なやり方で、キャバノーに対して虚偽の告発をねつ造し、統制された、資金十分の抗議運動を通じて、米上院が彼を承認しないように、舞台を仕組んだ理由である。

なるほど、これはよくわかる。最初からトランプに託されていた課題であった「泥沼清掃」が、いよいよ始まるということである。もう一つ、これをよくわからせる説明は、RTのものであり、

RTは、民主党は今、激しく共和党と対立しているようだが、どちらも同じようなものだとやっている。(おそらくそうであろう、民主党は文化マルクス主義による墮落が、より目立つが。)この騒動で対立しているのは、極端に言えば、トランプ+キャバノーと、あと全員と言ってもいいだろう。もちろん個々に立派な人々はある。しかし党としては、両党とも深層国家要員として、すべてがグローバル・エリートの手下であろう。トランプは、特に身ぎれいで純粋な、青年のようなキャバノーを選んだはずである。この役職だけは、清濁併せ呑む、うまくやるような人物は務まらないだろう。米政界の泥沼は、これ以上あり得ない「純粹悪」の、悪魔的泥沼であり、「濁」などいうものではない。(だからこそ、彼はその反対の人物として中傷を受けた。)

キャバノーは、どういうわけか、自分のそういう使命を予感していたようである。彼はこう証言した：――

「これは明らかに単純な中傷です。私は木曜日に、真実について証言し、私の穢れのないなまえを護ることを楽しみにしています。それは、私が最後の瞬間に何かを言われることのないように、生涯をかけて築いてきた、人格と誠実についての世評を護ることです。」

この事件で注目すべき重大な要素は、彼の妻と2人の娘である。これはいくつかの方面から指摘されている。この事件で、清廉なキャバノー氏を、罪に陥れることに、もし成功したとしたら、どうことが起こるか？ 彼の妻と2人の娘は、国家的に有名なレイピストの妻や娘として、永遠に汚名を着せられて生きていかなければならない。(既にそれが起こっているという。)それは国家の裁断した事実であって、消えることも是正されることも、おそらくない。共和党上院議員のキャンディは、それについてこう言っている：――

「上院民主党が本当に欲しいのは、キャバノー判事を中傷するための、もっと多くの時間であり、彼の妻や子供たち、それにわが国にのしかかってくる苦痛など、彼らにはどうでもよいことなのだ。・・・」

彼らは、キャバノー判事がギャング強姦犯だとか、性的に襲撃したとか、酔っぱらいとか、裁判に向かないのぼせ症だとか言ったことが、間違いだったとは絶対に認めない。

自分のねつ造した犯罪が間違いだったとは絶対に言わない――そのような主張を集団で押し通し、全く罪もないどこかの知らない人に、生涯の苦しみを与え、そのおかげで自分たちは罪を問われずに済むとしたら、これは普通の人間なら、耐えられない、非人間的な生き方である。しかし、そんなことは全く考えない人々が、大量に存在するというのを、この途方もない劇は教えてくれた。

このような、いわゆるサイコパスと言われる、非人間的な人々が、個人レベルではいざ知らず、政治的なレベルでは当然のように存在するのが、アメリカという国である。こういう生き方はアメリカでは「アメリカ例外主義」という、誤った傲慢な国家思想として存在する。これが世界中の人々を苦しめ、悲しませてきた。**世界には、カバノー氏の妻と2人の娘が、声も出さずに大量に存在している。**もうこのような犯罪国家には、引き取ってもらわなければならない。しかし、そんなことを言うまでもなく、彼らは自ら崩壊していく。今、それが目の前の劇場で起こっている。